



根気強く
続けていかないと

Kana Yabe
矢部 加奈 さん

佐伯市弥生在住、42歳。2010年に四季菜工房を立ち上げ、12年から弥生のショウガを使用した商品を販売する。料理コンテストへの参加が趣味。



林道を
つくってほしい

Keisuke Sonoda
曾根田 啓介 さん

佐伯市直川在住、26歳。陸上自衛隊、佐伯広域森林組合に勤務した後、2014年から「山究」で林業に従事している。夢は自分の事業体を作ること。



情報を
持つことも大切

Chiharu Hashimoto
橋本 千春 さん

佐伯市蒲江在住、38歳。Gran Primavera代表。結婚を機に蒲江の丸二水産へ。蒲江産のウニを使ったウニしょうゆを開発し販売している。



どんどん
面白いことを
やろう

Daigo Mitarai
御手洗 大悟 さん

佐伯市在住、35歳。高校卒業後、愛知県の鉢花生産者の元で研修。2009年に農場を継ぎ、ミディマトの生産に取り組む。大型の園芸施設建設が目標。



生産者の
希望の星で
ありたい

Miwa Takahashi
高橋 美和 さん

佐伯市本匠在住、47歳。愛の里工房・会計事務所。子育てをしながら理髪店を営み、1999年から「雪ん子寿し」で知られる愛の里工房を手伝っている。



いろんなところと
コラボを

Takeshi Kyusaka
休坂 武志 さん

佐伯市鶴見出身、38歳。市農林水産部さきブランド流通課主査。1996年鶴見町役場に入庁。佐伯市の自慢は港町の風景と食の豊かさ。



外から人が
入る隙つくる

Ryosuke Iwakiri
岩切 亮佑 さん

佐伯市在住、26歳。佐伯市企画課総合政策係。東京大学を卒業後、2013年佐伯市入庁。地域振興や離島振興、エコマーク登録推進などに取り組む。



消費者の
ニーズ考えたい

Seiji Yamazaki
山路 誠治 さん

佐伯市米水津在住、44歳。高校を卒業後、家業である定置網漁業に従事しながら潜水漁業も行っている。水揚げの減少、農機具による漁場の減少が気がかり。



佐伯の
多様性に可能性

Takashi Abe
阿部 貴司 さん

大分市出身、45歳。JTB九州大分支店営業課長。1992年に入社。佐賀支店を経て2011年から現職。10年後も地元大分の役に立つ仕事をしたい。



佐伯の魚は抜群

Toshiaki Doi
土居 敏明 さん

大分市出身、52歳。イオン九州食品商品部水産グループ大分地区担当・鮮魚バイヤー。自社の水産売り場を地域1番店にすべく、日々顧客満足度を追求。



市内に人が
回る仕組みを

Yusuke Iwasaki
岩崎 裕祐 さん

佐伯市上浦在住、42歳。一般社団法人佐伯市観光協会副事務局長。1991年に上浦町役場に入庁。佐伯市観光などを現職。地域をもっと元気にしたい。



佐伯愛を
強く感じた

Toshiro Kiyomatsu
清松 俊朗

2003年入社。整理部。37歳。佐伯の浦・里・街が持つ魅力と郷土愛が融合し、これからさらに発展していく姿を見ていきたいです。



素晴らしい資源を
生かして

Motochika Odahara
小田原 大周

2004年入社。社会部、広告編集部、由布支局などを経て文化科学部。36歳。踏み出すか、とどまるか。佐伯の生産者のあと一歩の努力に期待。



ファン増やし
活性化を

Toru Syo
庄 亨

1997年入社。別府支社編集部、事業部を経て報道部。39歳。佐伯市民の皆さん、郷土をもっと強力に自慢して、ファンづくり推進を!



佐伯らしい
ものづくり
したい

Takayuki Karu
狩生 孝之 さん

佐伯市本匠出身、43歳。ぶんと銘産代表取締役。東京農大を卒業後、酒類卸問屋勤務を経てぶんと銘産入社。地元産の素材で地酒づくりに取り組む。



自分たちが
佐伯市を一つに

Koki Matsuhisa
松久 浩紀 さん

佐伯市蒲江出身、47歳。現地芸能人ビジュアル。東京マリンカルチャーセンター・営業企画課に勤務。伊勢えび観光大使、漁師料理研究家などで活躍。



山間部にも
違った魅力ある

Kenichi Kozono
小園 健一 さん

佐伯市在住、36歳。困り事お助け協会理事。過疎化した地域で観光資源を生かした活性化を目指し、観光PR活動「童心に蛙」も行っている。



ウイン・ウインの
関係に

Go Ninomiya
二宮 剛 さん

大分市在住、36歳。大分ベンチャーキャピタル投資事業部サブマネージャー。鹿児島大学卒業後、2009年に大分銀行入行。今年4月から現職。

佐伯市

ミライデザイン会議

ハピカム

街浦里と人の“開通”を

大分合同新聞社が、「地域や人々とのつながりを大切に、長期的なビジョンを共有しながら一緒に地域の未来をデザインしたい」との思いで2011年にスタートさせたプロジェクト・ミライデザイン会議「ハピカム」。第13弾となる佐伯市編が6日、同市役所などであった。九州一の面積を誇り、おいしい海山の幸に恵まれた同市。来年には東九州道の佐伯―蒲江間も開通するなど観光面でも大きなチャンスを迎えている。市の将来を担う若手リーダーと同世代の大分合同新聞社員らが、分科会と総括会議を通して白熱した議論を交わした。「1次産業(コーディネーター/小田原大周)」、「観光(コーディネーター/清松俊朗)」、「産創交流(コーディネーター/庄亨)」の3分科会にはそれぞれ、関連する現場で活躍する若手リーダーが4人ずつ出席。外部アドバイザーやコーディネーターの記者と共に地域の未来について語り合った。分科会の内容をテーマごとに紹介する。総合アドバイザーは大分大学経済学部准教授の山浦陽一氏。総合コーディネーターは丸山博基・大分合同新聞社整理部長。

主催/大分合同新聞社 共催/佐伯市 佐伯商工会議所 佐伯市番匠商工会 佐伯市あまべ商工会
協賛/国立大学法人 大分大学 (株)大分銀行 (株)ドコモCS九州大分支店 日本たばこ産業(株)熊本支店 大分県マリンカルチャーセンター

総合アドバイザー



Yoichi Yamaura
山浦 陽一 さん

東京都出身、35歳。大分大学経済学部准教授。2009年から現職。大企業と農村地域の連携、研究・教育・地域連携の相乗効果などを研究している。

総合コーディネーター



Hiroki Maruyama
丸山 博基

1991年入社。販売部、整理部を経て整理部長。47歳。ふるさと佐伯は海山の幸に恵まれ「味力」も広まら九州一。高速度を飛躍へとつなげてほしい。

総括会議の様子は12月27日(土)の朝刊をご覧ください。

ウェブ <http://www.oita-press.co.jp> 3D <http://www.oita-press.co.jp/h-come/>

感動を、 シェアしたい。

夢を共に分かちあう。厳しさを共に実感する。

長い時間を共に過ごし、考え抜き、とことん話し合う。

それも、ひとりの行員とお客さまという関係を超え、何としてもお役に立ちたいという、

執念に近い情熱。アイデアにあふれ、期待に応える提案。

また、ひとりの人間としての信頼。そこで、はじめて、強い絆が生まれる。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。

そして、地域の皆さまやお客さまと、その発展・成功と共に喜び、

「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。

それが私たちの、感動です。

大分銀行

